

自己評価表

教育方針		重点目標			
1 心身の調和的発達を図り、健康で明るい人間を育てる。 2 地域社会との触れ合いを深め、情豊かなたくましい人間を育てる。 3 社会生活や家庭生活に必要な態度や能力を養い、勤労を尊ぶ人間を育てる。 4 保護者・児童生徒からの要請に基づいた合理的配慮の提供に努力する。		地域社会の未来を自分らしく生き抜く力の育成 ー 瞳輝き、心つながる自己実現を目指して ー ① コミュニケーション力 【伝える力(表現力)】自分の気持ちや考えを表現し、伝える力を育む 【感じる力(共感性)】相手の気持ちや思いを肌で感じる感性を育む ② 自己肯定力:達成感を積み重ねることで、自信を育む ③ 挑戦力:自ら主体的に考え行動し、根気強くチャレンジする力を育む ④ 生活力:社会の中で自立して豊かに生きていくための力を育む			
領域	評価項目 (マニフェスト関連)	具体的目標	評価 (A～E)	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	学習指導の充実 (分かる授業)	効果的な教材教具の作成や学習系Wi-Fiを利用した情報通信技術機器(パソコンやタブレット端末等)を活用した授業を推進するとともに、ホームページ等で積極的に発信する。	B	・ICTの研修を積極的に行った成果があり、ICTを活用した授業が数多く実践された。 ・ホームページに授業の様子を掲載し、本校の教育活動への理解促進につながった。	・引き続きICTを活用し、楽しく分かりやすい、また主体的に学べる授業の推進を図る。 ・今後も積極的に授業の様子をホームページに掲載する。
	専門性の向上 (専門性)	認定講習の受講促進や、特別支援教育に関する研修の積極的な情報提供を通して、専門性向上の機会を確保する。 <b>校内の教員の教育実践を見聞かせる場を設定して、学校全体で共有する。</b>	B	・3名が認定講習を受講し、申請手続きをして免許を取得した。 ・オンラインでの研修を受講したり、校内で事例研究会や実践報告(部別)を実施したりすることで、専門性の向上を図った。また、授業参観を全教員1人1回実施し、授業研究会で意見交換する場を設けた。	・認定講習受講を継続して勧め、専門性の向上を目指す。 ・各種研修の内容を校内へ浸透させる機会を設定する。 ・校内の教員の教育実践を見聞かせる場を設定して、学校全体で共有することで、各教員のスキル向上を目指す。
生徒指導	生活指導の充実 (挨拶)	個に応じた表現方法を具体的に示し、気持ちの良い挨拶を交わす生活習慣を育成する。	A	・担任は、児童生徒の個に応じた挨拶の表現方法を考え、教職員間で共有しながら登下校の際に機を捉えて指導した。 ・児童生徒は、学校生活全体の様々な機会を通して、繰り返し挨拶の経験を積むことで、気持ちの良い挨拶を交わす習慣化につながった。	・児童生徒の個に応じた挨拶の表現方法を部で共有し、教職員が一貫性のある挨拶指導を継続的に行う。 ・朝の清掃活動など児童生徒の自主的な取組の中で、教師が手本となりながら、自ら気持ち良い挨拶を交わす習慣の育成を図る。
	集団活動の充実 (人間関係)	集団や場の工夫によりコミュニケーションスキルの向上を図る。また、係活動の充実を図り、責任感や自己有用感を高める。	B	・感染予防を行い、ICT活用も取り入れ、新たなコミュニケーションの取り方を経験するなど、他者との関わり方を工夫しながら取り組んだ。日々の継続した取組を通して、自分の役割を自覚し、主体的に活動する児童生徒が増えた。	・集団活動の目的や内容を具体的に伝え、主体的、対話的な学びの機会を継続的に行っていく。活動後の振り返りの時間を大切にしながら、コミュニケーション力や自己有用感等の向上を図る。
進路指導	進路指導の充実 (キャリア教育)	進路に関する研修の実施や進路だよりなどの配布を行い、卒業後の生活が見通せる情報提供に努め、ニーズに応じた進路選択、進路実現を図る。	B	・感染症予防対策を講じながら、進路懇談会、就労に関する学習会を開催し、進路に関する情報提供に努めた。 ・進路だよりを年間4回発行して、進路に関する情報提供を行い、進路に関する理解の啓発を図った。 ・市町の福祉担当課をはじめ、関係機関と連携し生徒や保護者のニーズに応じた進路指導に努めた。	・引き続き進路に関する情報提供に努め、希望に応じた進路開拓を行う。
		愛顔(えがお)のえひめ特別支援学校技能検定で、1級取得者数20%以上を目指す。評価基準(A:20%以上、B:18%以上、C:16%以上、D:14%以上、E:14%未満)	A	・愛顔のえひめ特別支援学校技能検定において、1級取得者が21%となり、20%を超えることができた。	・1級には届かなかったが、1級の実力を持っている生徒も多く、キャリアトレーニングを通して、更に技術の向上を目指す。
センター的機能	地域のセンター的機能の充実 (センター的機能・共生社会への理解啓発)	特別支援教育コーディネーターを中心に内部人材も活用しながら、外部支援・相談に応じる。	B	・地域支援の実施状況は、昨年度とおおむね同じである。主訴として就学・進学相談が多く、学校紹介や授業体験、授業参観を実施する機会も多いが、コーディネーターの他、担任等の協力を得ながら行った。	・研修や情報共有を通して、様々なニーズに対応する相談担当者の育成に努める。コーディネーターが校内外の連絡・調整を行い、外部からの依頼に適切に応えられるようにする。
		学校行事等の魅力ある活動や、障がいのある児童生徒を支援する具体的な活動の様子をホームページや公開授業などで積極的に情報発信する。	C	・各部・寄宿舎が積極的にホームページに記事を掲載し、閲覧数も一定以上あり、多くの人に校内の様子が分かってもらえる状態となっている。	・学校行事等は、行事当日のうちに担当課が学校を代表して記事をホームページに掲載する。
学校安全	安全教育の充実 (安全・防災教育)	ヒヤリ・ハット事例の確認や緊急時対応マニュアルの見直しを行い、事故の未然防止の意識や対応力を高める。施設・設備点検を月1回実施する。	B	・施設・設備の点検を月1回、遊具等の安全点検を毎学期行うことを継続した。校内外の危険箇所や要修理箇所を把握し、修理や備品の購入を行った。 ・現状に即しているかに視点を当て、緊急時対応マニュアルを見直した。	・安全面に関わる要修理箇所について、より速やかに対応する。大雨や地震等災害があった後には、入念に安全点検を行い、早期の修繕に努める。 ・教職員が活用しやすいマニュアルになるよう、見直しを継続する。
		自らの命を守る行動が主体的に行えるように、様々な事態を想定し、実践的・現実的な防災訓練を月1回、実施する。	B	・計画的に防災訓練が実施できた。生徒も命を守る行動が身に付いてきている。起震車体験を実施し、実際に地震の揺れを体感することができ有意義であった。	・ショート訓練については、少しマンネリ化しているようなので、やり方を改善する。
その他	働きがいのある職場環境の充実 (教職員の働き方)	時間外勤務は、上限を月45時間以内とする。 評価基準(A:100%、B:95%以上、C:90%以上、D:85%以上、E:80%以上)	D	・今年度4月から12月までの時間外勤務において、上限45時間以内の割合は87%である。 ・上限45時間を超えた人数では、6月22人・11月20人と多く、7月8人・8月1人と少なかった。メリハリのある勤務実態といえる。	・80時間を超える人については、面談などを通じてワークライフバランスについても考えていく。 ・テレワークの活用を促進するとともに、変形労働時間制の活用についても研究していく。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。